2024年7月19日 作成

企業健康カルテ

2024（令和6年度）配付版

澤田建設　株式会社 様

目次

Ⅰ．企業健康カルテについて …… P.1～2
Ⅱ．貴社の健診受診状況 …… P.3～4
Ⅲ．貴社の特定保健指導利用状況 …… P.5
Ⅳ．貴社の生活習慣病リスク …… P.6～9
Ⅴ．貴社の生活習慣の傾向 …… P.10～13
Ⅵ．貴社の医療費 …… P.14
Ⅶ．健康保険料率について …… P.15～16

全国健康保険協会 山口支部
協会けんぽ

Ⅰ　企業健康カルテについて

(1) 貴社の基本情報

令和５年度末（令和６年３月末）時点で資格を有している方の人数を掲載しております。
作成日における実際の人数とは差異が生じる場合がございますので、あらかじめご了承ください。

事業所名	澤田建設　株式会社		
業態	総合工事業		
被保険者数	83 人	被保険者健診対象者数（35歳以上）	55 人
		被保険者健診対象者数（40歳以上）	54 人
		特定保健指導対象者数	17 人
被扶養者数	43 人	被扶養者健診対象者数（40歳以上）	20 人

(2) 本資料のデータ等の見方

【資料（データ）の見方】
・グラフは、貴社の各項目の経年変化について、「支部内（都道府県内）の事業所の平均」および「同業態の事業所の全国平均」との差をご確認いただけます。
・生活習慣病リスク保有者の割合のレーダーチャートは、2023（令和５年度）の貴社の健診結果を集計しており、「支部内（都道府県内）の事業所の平均」および「同業態の事業所の全国平均」との差をご確認いただけます。

【被保険者数または健診受診者数が１０人未満の事業所の場合】
・本資料において、被保険者数または健診受診者数が10人未満の場合は個人の特定を避けるために、**各項目を非表示**としております。同業態平均や山口支部平均の数値を参考値とし、個人の健診結果等と比較いただく資料としてご活用ください。

【本資料のデータ対象】
・データ抽出時点で協会が保有している情報を基に作成しています。一部の健診受診情報等につきましては、本資料に反映されていない場合がございますので、ご留意ください。
・以下の項目（※）を除き、被保険者の生活習慣病予防健診及び事業者健診（協会へ提供分）の受診者のデータを集計し、作成しています。
　※ご家族(被扶養者)の健診受診率：特定健診（被扶養者）のデータを集計
　※被保険者1人当たり医療費：診療報酬明細書（レセプト）のデータを集計
なお、生活習慣病予防健診を受診されておらず、事業者健診結果を協会けんぽへご提供いただいていない方(40歳以上）の受診データは、本資料に含まれておりません（受診者数等へ反映されておりません）。健康課題の把握のためにも、事業者健診結果のご提供をお願いいたします。

(3) 貴社の健診結果の状況等をご確認ください

「企業健康カルテ」は、役職員の皆さまの健診・保健指導等の受診状況、健診結果や健康に関わる生活習慣について、数値やグラフ、レーダーチャート等により見える化した資料です。
以下の項目に着目した企業健康カルテの状況を基に貴社の健康づくりにご活用ください。

1．健診の受診状況

健康のためには、健診を毎年受診してご自身の健康状況を把握することが重要です。
健診の受診状況⇒Ｐ３

【ポイント】
健診の受診率が低い場合、早急に受診率向上対策が必要です。

2．特定保健指導の利用状況

健診結果から生活習慣病の発症リスクが高く、生活習慣病の予防効果が多く期待できる方々へのサポートとなる保健指導の利用状況を確認しましょう。
特定保健指導の利用状況⇒Ｐ５

【ポイント】
健診結果を踏まえ、保健師等による特定保健指導を積極的に利用しましょう。
健康づくりには、専門スタッフによる健康サポート（特定保健指導）を通じた生活習慣の改善が近道です。

3．生活習慣病のリスクの把握

生活習慣病の多くは、メタボリックシンドロームが原因であるといわれています。メタボリックシンドロームの該当判定に関わる項目ごとの状況等を確認しましょう。
メタボリックシンドローム該当率
メタボリックシンドローム予備軍該当率　Ｐ７

健診の結果（項目別）から、保有リスクを確認しましょう。
健診の検査項目による生活習慣病リスクの割合⇒Ｐ６～Ｐ９
健診の問診項目による生活習慣の傾向別の割合⇒Ｐ１０～Ｐ１３

【ポイント】
健診結果等から分かる健康状態や生活習慣の状況と医療費の実態を照らし合わせ、総合的な健康課題を把握します。
メタボリックシンドロームを放置すると、脳血管疾患や心疾患等の重症疾患の発症につながる危険性が高くなります。
健康状態や生活習慣のリスクが高い場合には、異常があっても治療を受けていないことも考えられ、重症化によって将来の医療費増加につながる恐れもあります。

4．医療費の現状

皆様が負担する健康保険料は、都道府県ごとに料率を算出しており、地域の医療費に応じて保険料が決まる仕組みとなっています。
貴社の医療費の状況について⇒Ｐ１４

【ポイント】
適正な医療を受けずに、突然、脳血管疾患や心疾患等を発症した場合は、高額な医療費を要します。
従業員の健康づくりに取り組むことで、生産性の向上や医療費の適正化につながります。

5．経年変化等の把握

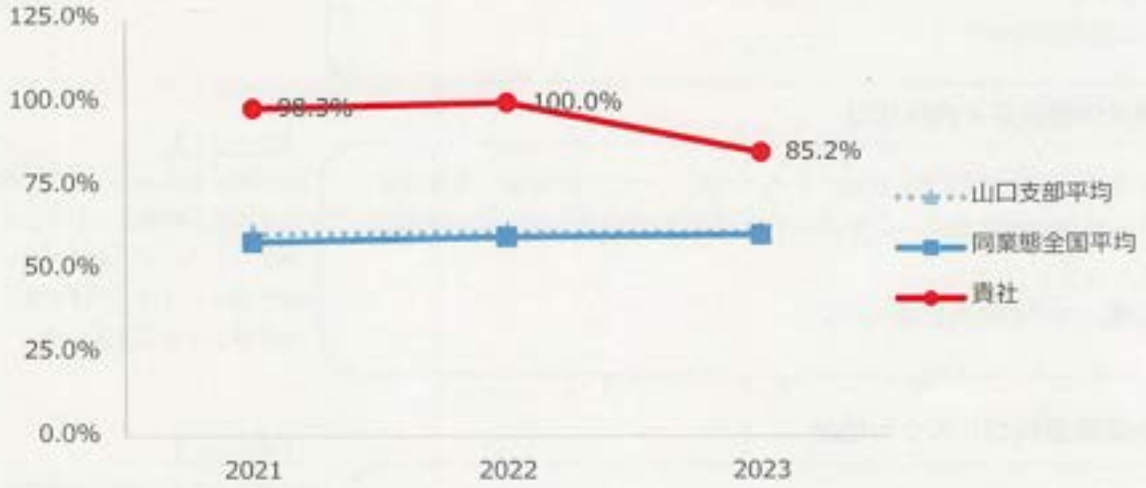
健康課題がわかったら、健康づくりの具体的な取組内容を決めて取組みましょう。また、毎年、経年比較して改善状況を確認し、取組みの評価や見直しを行いましょう。
掲載項目に係る経年比較の掲載
掲載項目に係る平均値との比較

【ポイント】
健康づくりの取組みは、簡単かつ継続した実施が可能なものにすることで、達成できたという満足感やモチベーションの維持につながります。
毎年、企業健康カルテで経年変化を確認するなど、ＰＤＣＡサイクルによる取り組みを推進します。

Ⅱ 貴社の健診受診状況

健診は自分の健康状態を理解して生活習慣を振り返る絶好の機会です。
協会けんぽでは、生活習慣の予防・早期発見のための、メタボリックシンドロームに着目した健診を行っています。年に一度は必ず健診を受けて、数値を確認しましょう。

① 被保険者(生活習慣病予防健診及び事業者健診)の受診率



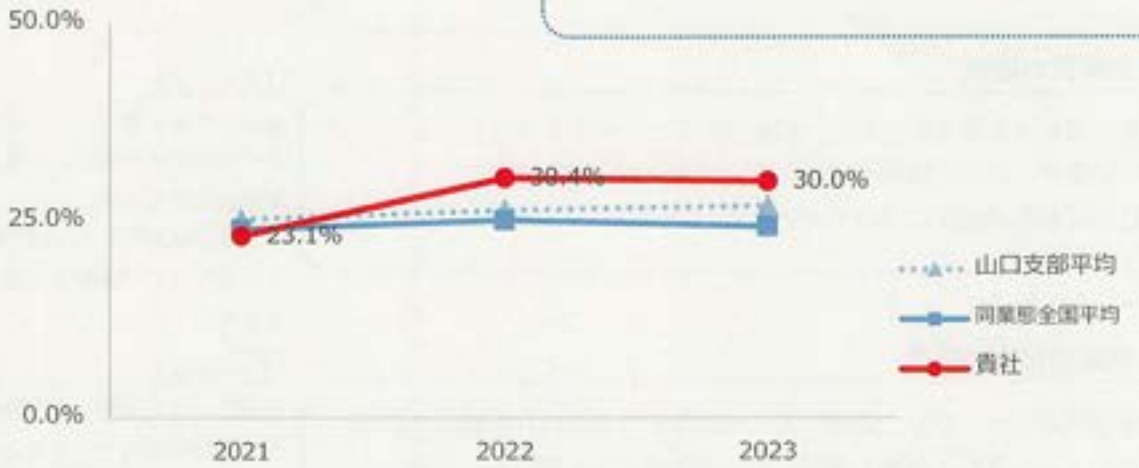
	2021	2022	2023
貴　社	98.3%	100.0%	85.2%
山口支部	60.5%	61.0%	61.2%
同 業 態	58.2%	59.8%	60.5%

健診対象者数（40歳以上）
54

令和6年3月31日 時点

② 被扶養者(ご家族)の健診受診率

従業員のみなさまが安心してお仕事をするにはご家族の健康も不可欠です。ご家族様にもお声掛けをお願いします。



	2021	2022	2023
貴　社	23.1%	30.4%	30.0%
山口支部	25.2%	26.3%	26.9%
同 業 態	23.9%	25.1%	24.3%

健診対象者数（40歳以上）
20

令和6年3月31日 時点

協会けんぽの生活習慣病予防健診をご利用ください

協会けんぽでは、年度内におひとり様1回に限り健診費用の一部を補助しています。

〇選ばれる３つのメリット

① 労働安全衛生法の定期健診に代えることができます
※ストレスチェックは含みません

② 約１９,０００円の健診項目（一般健診）が**最高5,282円**で受診できます

③ 定期健診検査項目に加えて**がん検診**も含んでいます
※胃・肺・大腸・乳・子宮頸がん検診
（乳・子宮は年齢等条件あり）

|健診内容

健診の種類	検査の内容	対象者	自己負担額
一般健診	・問診・診察等・身体計測・尿検査・血圧測定・便潜血反応検査・血液検査・心電図検査・胃部レントゲン検査・胸部レントゲン検査	35歳～74歳の方（75歳の誕生日の前日まで）	最高**5,282**円
	・眼底検査※医師が必要と判断した場合のみ		最高**79**円

一般健診に下記の付加健診を追加すると・・・

人間ドック並みの健診が最高７,９７１円で受診可能です。

さらに！

＋ 一般健診に追加できる健診（検診）
（単独受診はできません。）

令和６年度から対象年齢を５歳刻みに拡大

健診の種類	検査の内容	対象者	自己負担額
付加健診	・尿沈渣顕微鏡検査・血液学的検査・生化学的検査・眼底検査・肺機能検査・腹部超音波検査	一般健診を受診する40歳、45歳、50歳、55歳、60歳、65歳、70歳の方	最高**2,689**円
乳がん検診	・問診・乳房エックス線検査 ・視診・触診 ※視診・触診は医師の判断により実施	一般健診を受診する40歳～74歳の偶数年齢の女性の方	50歳以上 最高**1,013**円 40～48歳 最高**1,574**円
子宮頸がん検診	・問診・細胞診 ※自己採取による検査は実施していません。	一般健診を受診する36歳～74歳の偶数年齢の女性の方	最高**970**円

子宮頸がん検査は20歳～38歳の偶数年齢の女性の方は単独受診も可能です。受診までの流れや健診実施機関一覧など詳しい情報は山口支部HPからご確認ください。

Ⅲ 貴社の特定保健指導利用状況

健診は受けて終わりではありません。その後の生活習慣の見直しや医療機関の受診につなげることが重要です。協会けんぽでは、40歳以上で健診の結果、生活習慣病の発症リスクが高く、生活習慣の改善による生活習慣病の予防効果が多く期待できる方を対象に、保健師や管理栄養士が、生活習慣の改善のサポート（特定保健指導）を行っています。
特定保健指導の対象になったら、積極的なご活用をお願いします。

① 特定保健指導 対象者数

	2021	2022	2023
貴社	18	18	17

② 特定保健指導 初回面談実施率

（初回のサポート面談を受けられた方の割合）

	2021	2022	2023
貴社	55.6%	77.8%	47.1%
山口支部	21.6%	25.4%	21.5%
同業態	23.4%	25.6%	25.6%

③ 特定保健指導 評価実施率

（中断せずにサポート完了された方の割合）

	2021	2022	2023
貴社	50.0%	66.7%	47.1%
山口支部	17.9%	20.5%	11.3%
同業態	18.7%	20.3%	13.9%

事業主様へ

特定保健指導の実施にあたっては、時間・場所の確保について事業所さまのご協力が必要不可欠です。対象になられた方が、生活習慣を改善し健康に働けるよう、日程調整等のご協力をお願いいたします。

Ⅳ 貴社の生活習慣病リスク

2023（令和5年度）の生活習慣病予防健診等の受診結果を集計し、山口支部および同業態全国平均と比較したものです。下段レーダーチャートの赤色の線が貴社の各項目におけるリスク保有状況を示したものです。貴社の現状（特徴）を把握し、健康増進の契機としてご活用ください。

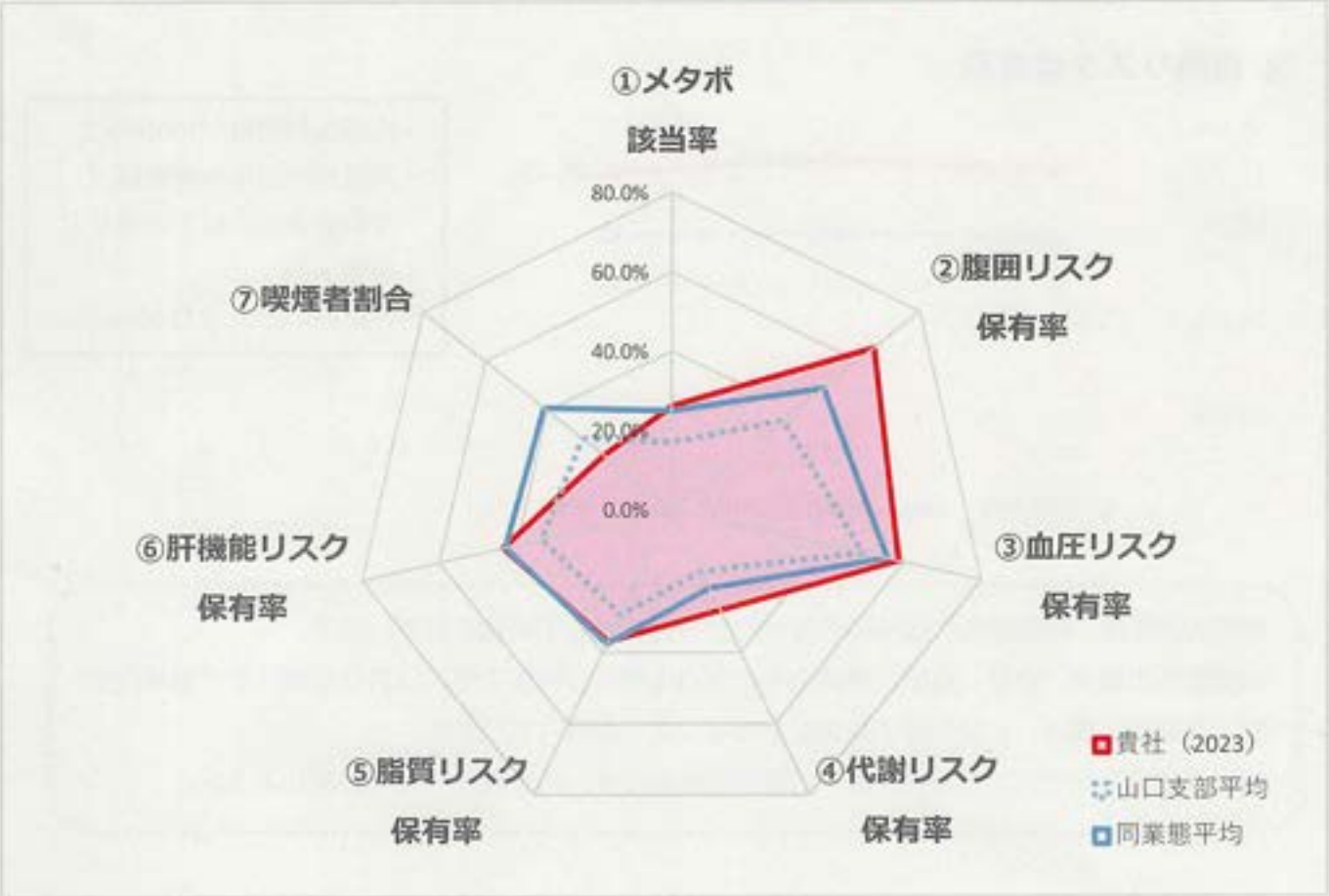
指標の見方　赤色の線の面積が小さいほど、**保有リスクが少なく良い状態**

2023年（令和5年度）の貴社の生活習慣病リスク保有状況です。

項目	貴社（2023）	山口支部平均	同業態平均	検査でわかること
①メタボ	26.1%	16.9%	24.9%	内臓脂肪型肥満に血圧、血糖、脂質リスクが重複した病態です。
②腹囲	65.2%	35.8%	48.9%	内臓脂肪の蓄積の程度がわかります。
③血圧	58.7%	49.4%	55.7%	循環器（心臓、血管）、腎臓などの異常を知る手掛かりになります。
④代謝（血糖）	28.3%	17.3%	22.0%	高値は糖尿病の疑いがあります。
⑤脂質	37.0%	29.5%	37.6%	中性脂肪の増加は動脈硬化を進めることにつながります。
⑥肝機能	43.5%	33.6%	43.0%	肝臓に障害が起こると値が高くなります。
⑦喫煙	21.7%	28.7%	41.0%	喫煙は、「がん」をはじめ様々な疾患の要因となります。

（参考）

健診の問診項目回答	貴社（2023）	山口支部平均	同業態平均
20歳の時から体重が10kg以上増加した	54.4%	39.6%	50.9%



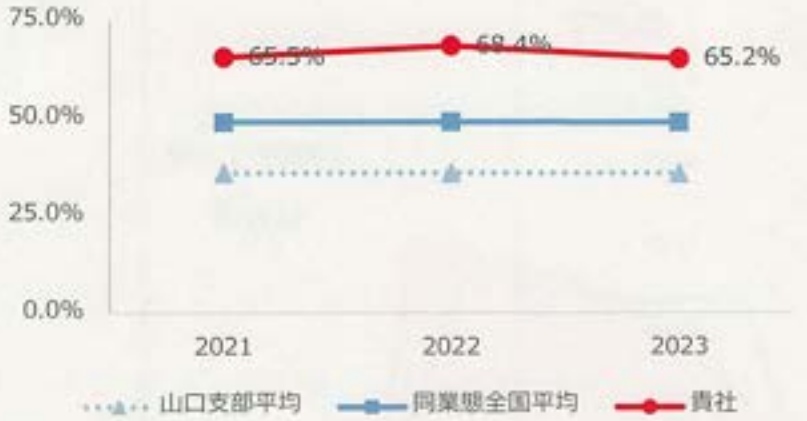
貴社の生活習慣病リスク（項目別）

① メタボリックシンドローム該当率（参考：メタボリックシンドローム予備群該当率）

＜メタボ該当＞
腹囲リスク有
かつ、以下2項目以上リスク有
＜メタボ予備群該当＞
腹囲リスク有
かつ、以下1項目リスク有
・血圧リスク
・代謝（血糖）リスク
・脂質リスク

生活習慣病の多くはメタボリックシンドロームが原因と言われています。メタボリックシンドロームを放置すると、脳血管疾患や心疾患等の重症疾患の発症につながる危険性が高くなります。国の調査によると、60歳代までの介護が必要となった原因は循環器疾患（脳血管疾患・心疾患）の割合が最も大きく、予防のために運動習慣・食事習慣の改善などにお取組みいただくことが大変重要です。

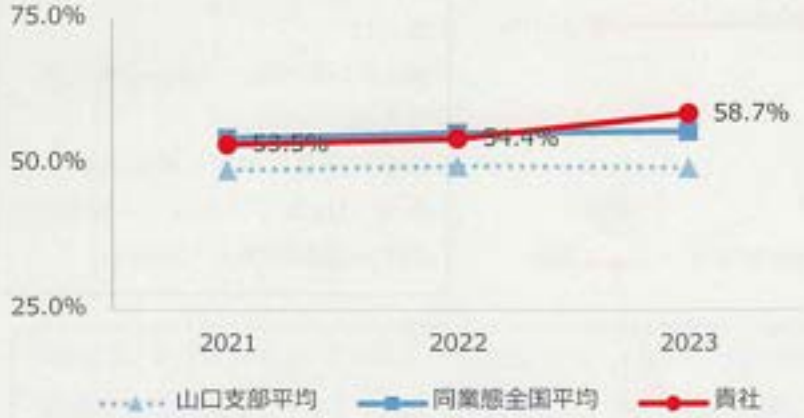
② 腹囲リスク保有率



・内臓脂肪面積が100㎠以上
・内臓脂肪面積の検査値がない場合は、以下の通り。
＜腹囲＞
男性85cm以上、女性90cm以上

腹囲の測定は、内臓脂肪の蓄積の程度がわかる指標として実施されています。
内臓脂肪の蓄積、血圧、血糖、脂質のそれぞれの異常が軽度でも、リスクが重なると動脈硬化などが急速に進み、心疾患等の病気にかかるリスクが高くなります。
腹囲（体重）が増えてきた場合は、内臓脂肪を減らすため減量を考えてみましょう。

③ 血圧リスク保有率



収縮期血圧130mmHg以上
または拡張期血圧85mmHg以上
または高血圧に対する
薬剤治療あり

高血圧症は、塩分過多や肥満、過度の飲酒、運動不足などが原因で血管に血液の圧力が過度にかかっている状態で、喫煙と並んで日本人の生活習慣病死亡に最も大きく影響する要因です。放置すると血管が固くなって動脈硬化が進行し、脳血管疾患が発症するリスクが高まります。

【山口支部の特徴】

右グラフは山口支部の血圧リスク保有者の割合を協会けんぽの全国平均と比較したものです。
血圧リスク保有者の割合は全国平均と比較して高い状態にあります（高いほうがよくありません）。食塩の取りすぎや運動不足などの要因が組み合わさった結果と思われます。「血圧リスク保有率が高い」という結果が出た事業所様は、従業員の皆様の生活習慣の見直しに意識的に取り組みましょう。

④ 代謝（血糖）リスク保有率

空腹時血糖110mg/dl以上
空腹時血糖の検査値がない
場合はHbA1c6.0%以上
または
糖尿病に対する薬剤治療あり

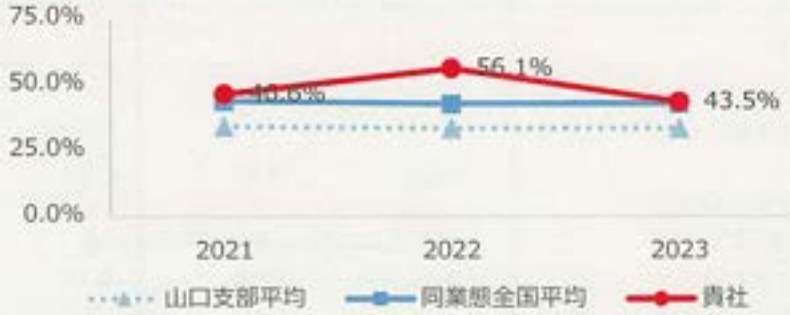
糖尿病は、膵臓から分泌されるインスリンの作用低下により高血糖の状態が続く病気です。食生活や体質など、様々な要因が組み合わさり発症します。気づかないうちに進行し、多くの合併症を発症したり、免疫の低下により感染症にかかりやすくなり重症化しやすくなります。

⑤ 脂質リスク保有率

中性脂肪150mg/dl以上、
または
HDLコレステロール40mg/dl未満
または
脂質異常症に対する薬剤治療
あり（LDLコレステロール高値に
対する薬剤治療ありも含む）

脂質異常はLDLコレステロールや中性脂肪が異常に多い、またはHDLコレステロールが異常に少ない状態のことです。この状態が続くと血管内に脂肪などがたまり、動脈硬化が進行します。この動脈硬化が原因で、脳血管疾患や心疾患にかかるリスクが高くなります。

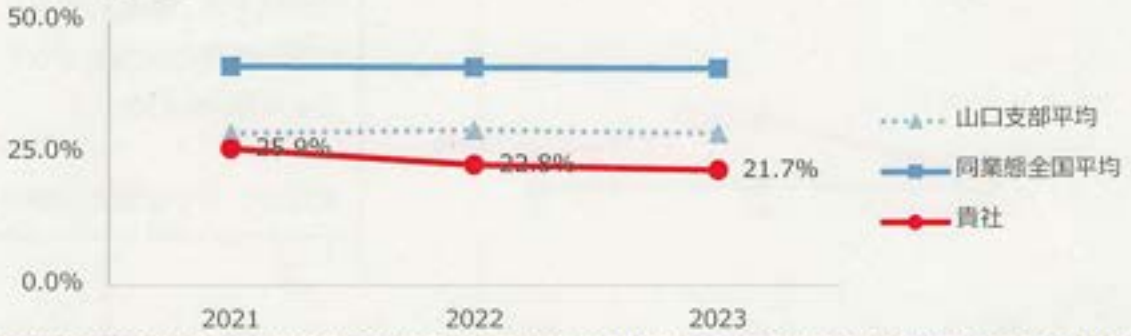
⑥ 肝機能リスク保有率



GOTが31U/L以上、
または
GPTが31U/L以上、
または
γ-GTPが51U/L以上

肝臓は"沈黙の臓器"と呼ばれ、異常があってもなかなか自覚症状が出ず、血液検査で初めて分かる場合がほとんどです。最近増えている肝機能の異常は「脂肪肝」で、その主な原因は飲酒や過食、運動不足、肥満です。脂肪肝を放置すると、肝臓がんまで進行する場合があることが分かっています。

⑦ 喫煙者割合



「やめたいけれど、やめられない」。長く喫煙されてきた方ほど、そう簡単には禁煙できないと思います。しかし、喫煙には以下のようなデメリットが考えられます。

① 知らないうちにお客様に嫌がられる（タバコを吸わない人は臭いに敏感）
② 仕事をさぼっているように見られる
③ 病気で休みがちになる（免疫力の低下）
④ ストレスの増加（ニコチン切れによるストレス増）
⑤ 時間が奪われる

協会けんぽの特定保健指導とあわせて、禁煙補助剤や禁煙外来を利用することにより「楽に」「より確実に」禁煙できます。禁煙でお悩みの場合は一度ご相談ください。

V 貴社の生活習慣の傾向

2023（令和5年度）の生活習慣病予防健診時の問診結果を集計し、貴社の従業員様の生活習慣の傾向について山口支部および同業態全国平均と比較したものです。

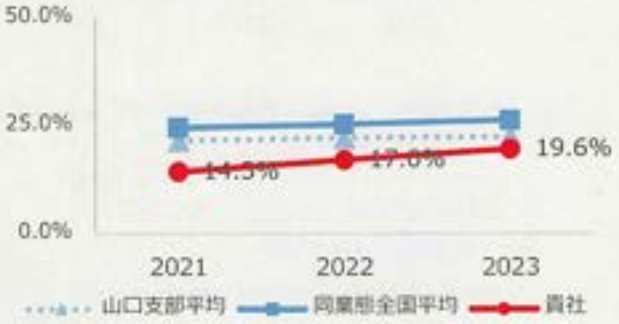
1．運動習慣

指標の見方 割合が**高い方が良い**

項目	貴社（2023）	山口支部平均	同業態平均
① 1回30分以上の運動を週2日以上、1年以上実施	19.6%	22.4%	26.3%
② 歩行又は同等の身体活動を1日1時間以上実施	34.8%	40.7%	40.2%
③ 歩行速度が速い	50.0%	41.0%	42.9%

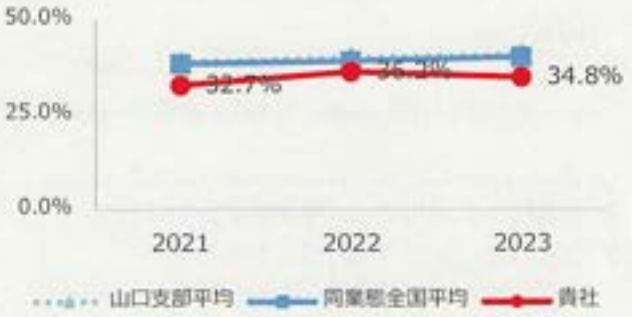
＊回答率が山口支部平均および同業態平均よりも低い場合は背景が赤くなっています。

① 30分以上の運動習慣



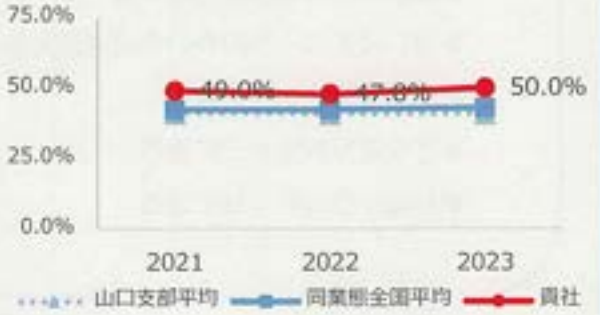
スポーツや体力づくり等を目的とした運動習慣の有無を確認しましょう

② 1日1時間以上の歩行



家事、就労等の日常生活での歩行（身体活動）時間を把握、確認しましょう

③ 歩行速度が速い



歩行（身体活動）の強度を把握、確認しましょう

日ごろから習慣的に体を動かしましょう

健康づくりのために推奨される運動量の目安は次のとおりです。

- **ウオーキングは１日約８０００歩**
- **息が弾んで汗をかく程度の運動を１週間で60分**
  ⇒１回１５分の運動を週４回や週末に１回60分の運動でも効果が得られます。

働き世代は慢性的な運動不足の方が多いと言われています。まずは通勤時間やお昼休み等を利用して、身近な場所でのウオーキングを始めてみましょう。

（参考文献：健康づくりのための身体活動・運動ガイド2023）

2．食習慣

指標の見方　割合が**低い方が良い**

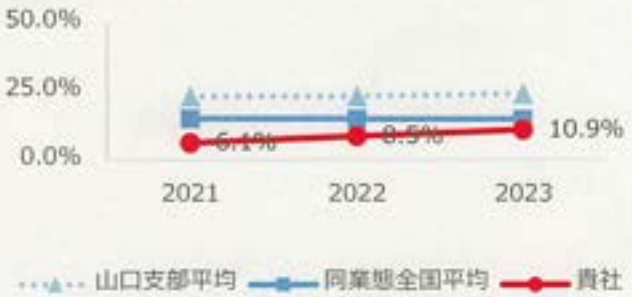
項目	貴社（2023）	山口支部平均	同業態平均
① 就寝前の2時間以内に夕食をとることが週に3回以上ある	37.0%	30.2%	33.9%
② 3食以外に間食や甘い飲み物を毎日摂取している	10.9%	24.0%	14.8%
③ 朝食を抜くことが週に3回以上ある	43.5%	24.1%	26.1%

＊回答率が山口支部平均および同業態平均よりも高い場合は背景が赤くなっています。

① 就寝前の夕食

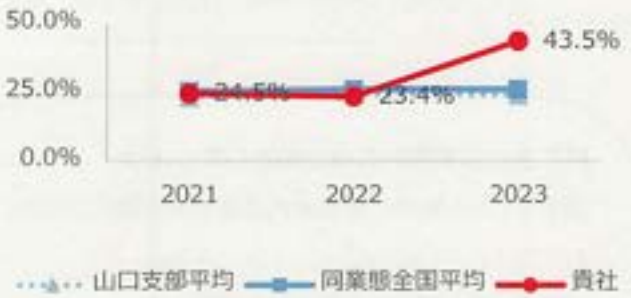
就寝前のエネルギー、糖質等の摂取状況を確認しましょう（肥満傾向との相関）

② 毎日の間食



間食の摂取状況を確認しましょう（肥満傾向との相関）

③ 朝食を抜く



朝食の摂取状況を確認しましょう（欠食による生活習慣病リスク増）

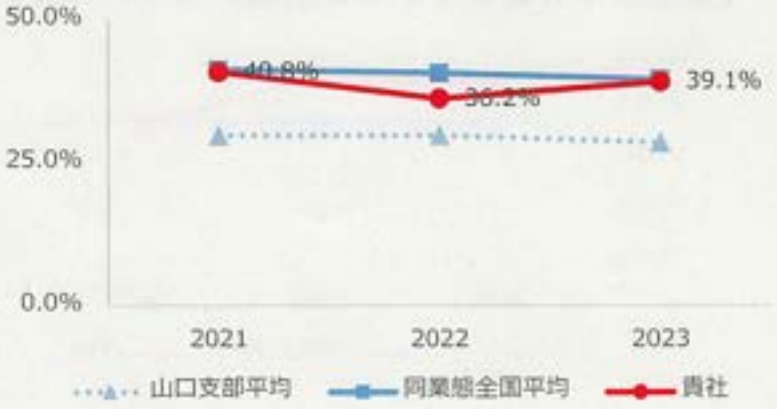
生活習慣病予防のための食生活

- 1日3食を規則正しく食べる
- 食べ過ぎに注意する
- 塩分の摂りすぎに注意する
- コレステロールの多い食品は控える
- 食物繊維を十分に取る
- ビタミン類を十分に取る
- カルシウムを十分に取る

3．飲酒

① 毎日飲酒すると回答いただいた方の割合

	2021	2022	2023
貴社	40.8%	36.2%	39.1%
山口支部	29.7%	29.8%	28.5%
同業態	41.3%	40.7%	39.6%



② 飲酒日の1日あたりの飲酒量が3合以上の方の割合

	2021	2022	2023
貴社	6.1%	6.4%	8.7%
山口支部	2.3%	2.5%	2.7%
同業態	4.7%	4.9%	5.2%

お酒をたしなむときは、自分のペースを守り、「適量」を守ることが大切です。
しかし、適量であっても毎日飲むのはよくありません。
週に２日はお酒を飲まない「休肝日」をつくり、肝臓を休ませるようにしましょう。

＜適量のお酒ってどのくらい？＞

厚生労働省が推進する「健康日本21」によると、「節度ある適度な飲酒量」は、1日平均純アルコールで20gとされています。純アルコール20gに相当する酒量は、以下の通りです。

・ビール（5%）ロング缶1本（500ml）　・日本酒1合　・ウイスキー ダブル1杯
・焼酎（25度）グラス1/2杯　・ワイン グラス2杯弱　・チューハイ（7%)缶1本（350ml）

なお、年齢・性別・体重・アルコール分解能力の違いにより、適量にはかなり個人差があります。飲酒にあたり、どの程度のお酒で自分がどんな状態になるかを知っておくことが大切です。

4．睡眠

【睡眠が十分とれていると回答いただいた方の割合】

	2023
貴社	67.4%
山口支部	63.2%
同業態	67.3%

【良質な睡眠のために・・・】

◆環境づくりのポイント

・日中にできるだけ日光を浴びると、体内時計が調節されて入眠しやすくなる。

・寝室にはスマホやタブレットを持ち込まず、できるだけ暗くして寝ることが良い睡眠につながる。

・寝室は適温で、就寝の約１～２時間前に入浴し身体を温めてから寝床に入ると入眠しやすくなる。

・できるだけ静かな環境で、リラックスできる寝衣・寝具で眠ることが良い睡眠につながる。

◆生活習慣のポイント

・適度な運動習慣を身につけることは、良質な睡眠の確保に役立つ。

・しっかり朝食を摂り、就寝直前の夜食を控えると、体内時計が調整され睡眠・覚醒リズムが整う。

・就寝前にリラックスし無理に寝ようとするのを避け、眠気が訪れてから寝床に入ると入眠しやすくなる。

・規則正しい生活習慣により、日中の活動と夜間の睡眠のメリハリをつけることで睡眠の質が高まる。

（参考文献：健康づくりのための睡眠ガイド2023）

Ⅵ 貴社の医療費

2021（令和3年度）から2023（令和5年度）の被保険者一人あたりの医療費/年を算出し、
山口支部および同業態全国平均と比較したものです。

	2023
貴社	¥274,573
山口支部	¥215,277
同業態	¥233,287

皆様にご負担いただいている健康保険料は、都道府県ごとに料率を算定しており、地域の医療費に応じて保険料率が決まる仕組みとなっております。なお、受診者等の特定を避けるため医療費の一部分を非表示とする場合がございます。あらかじめご了承願います。

【山口支部の特徴】

下のグラフは山口支部の１人あたりの医療費及び前年度比を協会けんぽの全国平均と比較したものです。
１人あたりの医療費は全国平均と比較して高い状況にあります。毎年増加していましたが、令和２年度はコロナウイルス感染症の影響で減少しています。

Ⅶ 皆さまの取組が健康保険料率に反映されます

協会けんぽの保険料率は都道府県支部ごとに毎年変わります。

保険料率が「高い」支部と「低い」支部では、「最大１.０７％」の差があります。

なぜ都道府県ごとに保険料率が異なるの？

都道府県単位の保険料率は、都道府県ごとの年齢構成や所得水準の差等を調整した上で、当該都道府県の加入者一人当たりの医療費に基づいて算出されています。

そのため、健康づくりの取組み等で、医療費の伸びを抑えることができれば、保険料率の伸びを抑えられる仕組みとなっています。

令和６年度の山口支部の健康保険料率

山口支部の令和６年度の健康保険料率は、**１０.２０％**です。全国平均の１０.００％を上回ったのは、医療費水準が全国平均より高いことが影響しています。

（保険料率の設定の際に、２年前の収支における収支差を精算します。山口支部は令和４年度の収支差がマイナスとなったため、その採算分について令和６年度の保険料率が0.01％引き上げられました）

山口支部保険料率の内訳

		保険料率	保険料率の内訳 支部ごとの医療費の差による料率（年齢・所得調整後）	全国共通の料率（高齢者支援金や事業経費等）	前々年度精算分・インセンティブ分 等
令和元年度	山口支部	10.21	5.41	4.82	-0.02
	全国平均	10.00	5.18	4.82	-
	全国平均との差	+0.21	0.23	0	-0.02
令和2年度	山口支部	10.20	5.49	4.73	-0.02
	全国平均	10.00	5.27	4.73	-
	全国平均との差	+0.20	0.22	0	-0.02
令和3年度	山口支部	10.22	5.51	4.71	0.00
	全国平均	10.00	5.29	4.71	-
	全国平均との差	+0.22	0.22	0	0
令和4年度	山口支部	10.15	5.48	4.71	-0.04
	全国平均	10.00	5.29	4.71	-
	全国平均との差	+0.15	0.19	0	-0.04
令和5年度	山口支部	9.96	5.44	4.64	-0.12
	全国平均	10.00	5.36	4.64	-
	全国平均との差	-0.04	0.08	0	-0.12
令和6年度	山口支部	10.20	5.59	4.60	0.01
	全国平均	10.00	5.40	4.60	-
	全国平均との差	+0.20	0.19	0	0.01

支部ごとの医療費の差が保険料率に影響

インセンティブ制度について

加入者・事業主の皆さまの取組（５つの評価指標）に基づき、全支部をランキング付けし、上位15位にランクインした支部にインセンティブ（報奨金）が与えられ、健康保険料が引き下げられる制度です。当該年度の取組は２年後の健康保険料に反映されます。

この制度は、加入者の皆さまが自ら疾病予防や健康の維持・増進に取り組むことで、自身の健康度の向上を図ることを目的としています。

健診の受診や特定保健指導を利用する等、予防や健康の維持に取り組むことが健康保険料率の上昇を抑えることにつながります。

直近の山口支部の取組状況

令和４年度
実績

総合19位/47支部
（前年度４０位）

令和6年度の健康保険料率については、
インセンティブを獲得できませんでした

各取り組みの指標と順位

①特定健診の実施率 年に一度は健診を受ける	32位 （前年度40位）	↑	カルテP3をチェック
②特定保健指導の実施率 メタボ判定なら特定保健指導を受ける	34位 （前年度25位）	↓	カルテP5をチェック
③特定保健指導対象者の減少率 日ごろから運動・食生活に気を付けてメタボを減らす	6位 （前年度41位）	↑	カルテP5.10.11をチェック
④要治療者の医療機関受診率 「要治療（再検査）」の通知がきたら医療機関を受診する	36位 （前年度27位）	↓	
⑤ジェネリック医薬品の使用割合 ジェネリック医薬品を使用する	7位 （前年度18位）	↑	

皆さまの取り組みで、保険料率が変わります。
各種取り組みの推進にご理解・ご協力をお願いいたします。

全国健康保険協会 山口支部
協会けんぽ

〒754-8522　山口市小郡下郷312番地2　山本ビル第3
TEL 083-974-0530（音声案内②）